

東京湾再生官民連携フォーラム

⑩ 東京湾浅瀬再生実験

東京湾浅瀬再生実験PT長 鈴木 康友
(株式会社つり人社 取締役会長)

2016年 はじめます 東京湾浅瀬再生実験 PT

生きものにとって浅瀬が最高の遊び場、生活の場所、浅瀬は大切

つくろう浅瀬、最初は実証実験をめざします。
(老朽化し役割転換が必要な直立の護岸を実験的浅瀬に再生チャレンジ)



徳川家康が江戸に幕府を開いた理由の一つが、潟だと言われている。100万人が暮らす大都会を作ろうとした家康にとって、江戸湾の広大な浅瀬と干

もの。また、海苔ヒビ周辺で釣れる、ノド黒ハゼは帰毛して捌くと台所に海苔の香りが満ち溢れたという。そのいずれも体験したことのない戦後生まれの私の夢は、死ぬまでにノド黒ハゼとアオギスを釣ってみたい!ということである。

高度経済成長時代に東京湾の広大な干潟や浅瀬が埋め立てられ、垂直護岸が作られた。近年、その護岸の一部が老朽化して危険な状態になっていくケースがある。そこで、それらの護岸を崩して傾斜をつけ、浅瀬に生まれ変わらせることができないだろうか?と考える「東京湾浅瀬再生実験PT」を立ち上げた。

官民が連携して市民参加型の浅瀬再生運動にし、自然環境の変化を広く情報発信していきたい

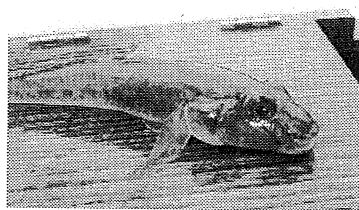
● 市民参加型や企業のCR活動と連携させるなど、協力的体制を構築する。
● 老朽化した垂直護岸を実験的に浅瀬に再生する。
● 新たな浅瀬再生モデル事業を試みる。
● 環境負荷や生き物に対する変化の評価を行い、それを広く情報発信する。
● 貧酸素塊発生の原因と呼ばれている穴の調査

と想っている。実行目標を以下に列記する。
● 護岸・浅瀬の情報収集&研究調査。
● 浅瀬再生に関する事例収集を行い、プロジェクト工程の分析を実施して再生価値、技術&環境メリットなどを把握する。
● 市民参加型や企業のCR活動と連携させるなど、協力的体制を構築する。
● 老朽化した垂直護岸を実験的に浅瀬に再生する。
● 新たな浅瀬再生モデル事業を試みる。
● 環境負荷や生き物に対する変化の評価を行い、それを広く情報発信する。
● 貧酸素塊発生の原因と呼ばれている穴の調査

&埋め戻し実験を行う。このPTのメンバーは、「マリコン」と呼ばれる海のゼネコン関係者、国土交通省をはじめとした行政関係者、自然保護運動関係者、学識経験者、漁業協同組合関係者、私のような釣り人など……。これまで、このような関係者が一堂に会して情報交換をしたことはなかったが、設立当初の会合から手心えを感じている。なるべく広く、数多くの情報を収集



東京湾大感謝祭 親子ハゼ釣り教室



江戸前のハゼ

し、メンバーの知見を集中して「実験」の現場を特定し、3年後くらいを目処に「提言」をまとめたかと思っている。(連載終)